

令和元年度 矢板市立小中学校 5大ニュース

(やいた未来ミーティング資料 矢板市長 齋藤淳一郎)

1. 全国学力テストで市内の小学6年生

昨年に続き全教科で全国平均を上回る

昨年度の全国学力テストで、市内の小学6年生の「国語A・B」、「算数A・B」、「理科」の全ての教科で、正答率が県平均、全国平均を初めて上回りました。また、本年度実施されたテストでも、全教科で全国平均を上回る好成績を維持しています。

この結果は、これまでの学校の授業改善の努力と、家庭での学習意欲の向上によるものと考えられています。市では、今後も更なる学力向上に取り組み、課題となっている中学生の学力向上に結びつけていきます。

2. 小中学校の普通教室全てにエアコンを設置

これまで矢板市立小中学校12校の普通教室のうち、エアコンが設置されているのは泉小学校1校のみで、その設置率は県平均の82.5%を大きく下回る6.5%（139教室中9教室）と、県内25市町中23番目でした。

そこで昨年夏の猛暑を受け、市では国の補正予算編成に先がけて実施設計を行い、国の特例交付金を活用し、6億2,900万円を計上。

本年6月末までに、全ての普通教室にエアコンを設置しました。（入札後の額は4億円）



3. トイレの洋式化も大きく前進

平成28年4月時点の矢板市立小中学校のトイレの洋式化率は24.2%で県内25市町中最下位でした。

そこで市では国の交付金を活用し、平成29年度に大規模校である矢板中学校のトイレ整備を行い、洋式化率を38.4%まで上昇させ、県内最下位を脱しました。

本年度は、当初から予定していた東小学校のトイレ整備に加え、矢板小学校分についても国の交付金がついたことから、令和2年3月末までに整備を完了するため工事の準備を進めています。

4. 未来基金で子育て世帯に年1万円助成

近年、他市町の子ども医療費制度において、医療機関窓口で支払い不要な「現物給付」の対象年齢を引き上げが行われています。しかし、軽症であっても医療機関を受診してしまう“医療のコンビニ化”や、国・県の補助金等の減額により、医療費に係る市町の負担は増加しています。

そこで市では、「現物給付」の対象年齢を中学3年生までに拡大した場合に想定される負担増加分の4,500万円を「矢板市子ども未来基金」として積み立て、対象年齢の拡大に代えて、給食費や教材費の助成という形で、本年度、小学生一人あたり9,500円、中学生一人あたり10,100円の助成をすることにいたしました。

5. 小中学校の適正規模・適正配置が建議されました

本格的な人口減少、少子高齢社会の到来により、国は全国の地方自治体に対し、小中学校を含む公共施設の統廃合を求めています。

矢板市でも市民参加のもと、平成29年3月に「矢板市公共施設総合管理計画」を、平成30年3月には「矢板市公共施設再配置計画」を策定しました。

このうち、小中学校については、昨年度、矢板市立小中学校適正配置検討委員会（委員長：渡辺弘作新学院大学長）で更なる審議を行った結果、本年1月、市内の9小学校を4校に、3中学校を2校に統合するよう、市の教育委員会に答申されました。

市教育委員会では、この答申を決議した上で、「計画策定後は、できるだけ速やかに実施されるよう願う」という意見をつけ、同年3月7日に市長に建議されました。

そこで本年度は、市役所内で建議された内容を具体的に推進するため「矢板市小中学校適正配置基本計画」の策定を進めています。



【番外】インフルエンザ予防接種の助成拡大

本年度から「中学3年生」と「高校3年生」に限られていたインフルエンザ予防接種の助成対象を、1歳から高校3年生まで拡大し、1回につき1,000円助成することとしました。（1歳以上13歳未満は2回分）

この取り組みにより、多くのお子さんのインフルエンザ感染リスクを少しでも減らしていきたいと考えています。